



自然科学派經濟學 : 小樽高等商業學校經濟學教授就職講演ノ一節(1)

大西, 猪之介

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 24(3):357-370

(Issue Date)

1918-03

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052853>



自然科學派經濟學（其一）

（小樽高等商業學校經濟學教授就職講演ノ一節）

小樽高等商業學校教授

商學士 大西猪之介

第一節 A. Smith ー Malthus

A. Smith ノ偉大ナル經濟學ノ根柢ハ自然法ニ對スル確信ニアル。彼ノ信念ニヨレバ、人類生活ノ根柢ニハ自然的ナル秩序ガアル。其ハ人若シ案ニ之ヲ攪亂セザルニ於テハ自ラ圓滿ニ作用シテ常ニ人間至高ノ幸福ヲ齎ス様ニ神ニ依テ作ラレタル秩序デアアル。例バ倫理ト實利トハ其本性上根本的ニ異ツタモノデハアルガ、倫理的ニシテ正義ニ適フ行爲ハ同時ニ内外幸福ノ源泉トナル様ニ、此世界ハ神ニ依テ造ラレテアル。即チ個人ガ其勞働ト其資本トヲ自由ニ使用シ、カクシテ得タル財產ヲ所有スル事ハ神聖ニシテ侵ス可カラザル自然ノ權利デアツテ、此權利ノ完全ナル行使ヲ許スナラバ、ソコニ唯一ノ正當ニシテ自然的ナ自由競争ノ狀態ヲ生ジ、是ニ依テ經濟生活ハ攝理ニ依テ望マレタル秩序ニ一致スル。乃チ Smith 〔富國論〕ニ於

テ開化セル社會ニハ野蠻時代以上ノ富アツテ、且ツ其レガ社會ノ最下層ニ迄擴ガレル事、換言セバアル國ノ富ハ多少トモ其國ニ屬スル各人ノ富デアツテ、英國ノ勤儉ナル農夫ハ一萬ノ土人生殺與奪ノ權ヲ握レル亞弗利加ノ王侯ヨリモ裕カナル生活ヲ樂メル事ヲ論述シタルニ止ラズ、這般唯物的ナル説明、其根本信念ヲ確立スルニ足ラザル場合ヲ慮ツテ「道德情操論」ニ於テハ精神的幸福ノ領域ニ驀進シ、攝理ガ土地ヲアル少數ノ大地主ニ配分シタレバトテ、其ハ決シテ此配分ニ漏レタル人間ガ忘却セラレ、又ハ見捨テラレタル意味デハナク、人生ノ眞ノ幸福例バ肉體ノ安樂及精神ノ平和ニ於テ一切ノ各階級ハ殆ンド差別ヲ有セザルモノデアリ、大道ノ傍ニ日ニ浴スル乞食ハ王侯ガ苦闘シテ求メツ、アル安全ヲ勞セズシテ享受シツツアルトサヘ説キ教フルニ躊躇シナカッタノデアル。

右ノ簡單ナ敘述ヨリ我等ノ直ニ看取シ得ルハ Smith ノ驚ク可キ樂天主義デア。最高ノ攝理ガ世界ヲ支配シテ働ク事ハ Smith ト等シク確信シナガラモ、最早ヤ現世ノ缺陷ニ眼ヲ閉ヅ能ハザル時代ニ生レタル Kant ガ德高キ人ハ幸福タル可キ價值ガアル、幸福トナツテ然ル可キデアルト説イテ、辛ウジテ德ト益トノ破産ヲ防ギ止メ得タル慘憺タル苦心ハ嘗メナイデ、單純無邪氣ニ德福合致ヲ確信シタル學者ガ Smith デアル。冷カニ自然ヲ研究スル心ト溫カニ自然ニ憧ル、情トヲ兼手備

ゝタル Newton ニ取ツテ、自然ハ至高ノ目的ヨリ調ヘラレタル機關デアツタ如ク Smith ニ取ツテ人類生活ハ神ニ依テ人類至高ノ幸福ヲ齎ス様ニ作り上ゲラレタル機關デアツタ。故ニ人若シ忠實ニ日常ノ生活ヲ營ミ、自己ノ利益ヲ追求スベクンバ見エザル神ノ手ハ自ラ其間ニ働イテ、彼ノ意欲セザリシ目的乃チ全體ノ幸福ヲ増進スル事トナラシムル。今此種ノ根本觀念ヲ有スル Smith ガ單ニ俗ニ稱シテ政治家ト名クル權謀術數ニ長ジタル動物ガ國家ヲ代表シテ外ヨリ加フル干涉ヲ嫌ツテ、之ヲ極メテ狹少ノ範圍ニ限ツテ是認シタルノミナラズ、各個人ガ意識的ニ他人ノ利益ヲ目的トシテ執ル行爲ガ果シテ何等カノ實益ヲ齎ス可キカニ就テ甚シク懷疑的デアツタレバトテ、其レニ何ノ不思議ガアラウ。

讀者ハ茲ニ於テ Smith ガ經濟的進歩ノ原因トシテ假定シタル自利心ハ正義ニ叶フ自由ノ範圍ニ於テ行使セラル、自利心ニ外ナラナイ事ヲ看取セラレテバナラス。蓋シ人、最モ多クヲ他人ヨリ得テ最モ少クヲ之ニ與ヘン事ヲノミ欲スレバ、其際最モ都合ヨキ手段ハ交易ニアラズシテ掠奪デアリ、因テ生ズル、狀態ハ和合ニアラデ戰鬪デアル。人ハ資本家ヨリモ征服者タラントシ、勞働者ヨリモ先ヅ盜賊タラント欲スルニ相違ナイ。サレバコソ Smith 自ラ一切ノ時代ヲ通ジテ人類ノ支配者

ノ下賤ナル方針ハ總テヲ自己ニ收メテ他人ヲ無一物タラシメントスルニ在ツタ
様ニ思ハル、ト云ヒ、又若干ノ個人及或特種ノ人間ノ利益ハ常ニ公衆ノ利益ト一
致スル事ナク、屢々之ト反對スルモノデアル事ヲ記スルニ吝デナカツタノデアル。
唯是等利己心ガ正義ニ叶フ自由ノ精神ヲ以テ裏附ケサル、時ニ、乃チ他人ヲ犠牲
トシテ自己ノ欲望ヲ満足セシメントスル行動ガ制限セラル、時ニ始メテ自利心
ノ發動ガ一般幸福増進ノ源泉トナルト主張セラル、ニ外ナラナイ而シテ此正義
ニ適フ自由ヲ制限シ又ハ之ニ干涉スルハ經濟上得策ナラザルト共ニ、道義上亦正
シカラザル事デアツテ、各人ヲシテ思フガマ、ニ自己ノ利益ヲ追求セシメ、一切ノ
特惠又ハ制限ヲ撤廢スレバ、茲ニ自然的自由ノ明白簡單ナル組織發現シ來ル可ク
其結果經濟組織ノ圓滿ナル運行アル可シト主張スル處ニ自然法派ノ根本思潮乃
チ人類ガ正シキ理性ノ命ニ從フテ行動スル時ニ最大ノ幸福實現セラル可シトノ
合理的見解ガ赤裸々ニ吾人ノ眼前ニ躍リ出ヅルノデアル。

唯夫レ Smith ヒシテ單ニ如上ノ樂天的信仰ノ宣傳者、形而上學的思索ノ鼓吹者
タルニ止ツタナラバ、彼ノ勢力ハ英國ニ於テ決シテ大トナルヲ得ナカツタニ相違
ナイ。況ンヤ、彼ノ死後、彼ノ思想ニ基ク學派ガ組織セラレ、彼ノ名ニ於テ、然モ彼自ラ

ノ豫想シタルヨリモ早く傳來ノ制度ガ撤廢セラレテ、Bagelotノ言ニヨレバ「殆ン
ド一切ノ英蘭ノ住民、恐クハ一切ノ英蘭ノ住民ノ生活ガ富國論一冊ノ爲ニ前ヨリ
ハ立派トナリ、其教理ハ英國人ノ常識中ニ沈澱融和シテ、復覆ス可カラザル」趣ヲ呈
シ、壯快ナル形容詞ヲ喜ブ論客ヲシテ彼ハ「Napoleonト竝ンデ歐洲ノ最モ強力ナル
主權者ナリ」ト叫バシムルニ至ル如キ狀況斷ジテ到來セザル可カリシ事ニ疑ハナ
イ。何トナレバ、*Smith*ノ「自然ニ從ヘ」トノ教ノ中ニハ、*Jean Jacques Rousseau*
ノ「自然ニ還レ」ト云フ獅子吼ノ中ニ赫トシテ燃エアガル程ノ情熱ハナイ。ヨシ、コレ
アレバトテ、空漠ニ抽象的ニ宣傳セラレタル自由平等博愛ノ福音ニ酔ツテ舊キ制
度ヲ抛リ出シテ顧ミザル果斷ノ無暴トヲ發揮シ得ルハ佛蘭西人デアツテ英吉利
人デハナイ。從テ其英吉利人ガ *Smith* ニ打込ンダトスルナラバ、*Smith* ノ中ニハ上述
先天的思索ノ外ニ尙アル何物カバアツタ筈デアル。而シテ其ハ確ニアツタ。直下ノ
實人生ニ汲マレタル知識是レデアル。直接ノ經驗ヨリ歸納サレタル研究是レデア
ル。

即チ彼ノ經濟學ハ時ニ速斷的ナル學者ヲシテ彼亦歷史學派ノ一人ナリト論ゼ
シムル迄ニ豊富ナル經驗ヲ以テ支ヘラレ、援ケラレ、育テ上ゲラレタル先天的確信

ノ叙述デアル。詳言セバ此先天的信念ヲ經トスルガ故ニ、其經驗ノ中ニハ自ラナル統一ガアリ、又此經驗ヲ緯トスルガ故ニ其先天的命題ハ單純ナル空想ノ域ニハ浮バナイ。從テ實驗派ノ人々ガ彼ノ著書ノ隨處ニ現ハル、經驗ニ依テ啓發セラレタルガ如ク、唯理派ノ人々ハ形而上學的根柢ノ上ニ如何ニ大ナル殿堂ヲ建立シ得ルカヲ學ビ得タ。實驗派ト觀念派トノ間ニ火花モ飛バン許リノ凄ジイ爭鬭ノ交ヘラレタル過渡時代ニ於テ、彼我兩者ノ主張ヲ併セテ一傘ノ下ニ齎シ來ツタル「富國論」ノ二元的性質ガ如何ニ時勢ノ要求ニ呼應シタルモノナリヤハ最早說カズシテ明白デアラウ。

問題ハ茲ニ一步奥深く進入シテ、然ラバ此經驗トカノ思索トハ如何ニ相結バレタルカト云フ問題ニ觸レテクル。而シテ之ト同時ニ彼ノ經濟學ノ強味ガヤガテ又其弱味デアツタト云フ趣味深キ事實ガ發現スル。

本來 Smith ガ實際ノ經驗ニ訴ヘタルハ依テ以テ先天的命題ノ眞ナルヲ證明セシガ爲デアツタ。理論ハカウデアルガ、實際モ現ニカウデアルト誇ランガ爲デアツタ。云ハ、經驗ハ理論ノ爲ノ傭兵ニスギナカツタ。故ニ其傭兵ガ主將ノ命ニ服從シテ從順ニ行動スル限り問題ハナイガ、一朝傭兵ノ行動、理論ノ希望ニ背反スルニ至

ラバ、茲ニ此相爭フニ要素ヲ如何ニ調和處分スベキヤテフ極メテ厄介ナル問題ガ肉迫スル。

第一ノ解決法ハ此從順ナラザル傭兵ヲ何等カノ方法ニ訴ヘテ從順ナラシムルニアル。其ガ爲ニハ時ニ寬量ナル兩親ガ息子ノ過失ヲ是認スルニ若氣ノ誤ナル言ヲ以テシ、放任スレバ若干期間後ニ正道ニ復ス可シト主張スルガ如ク、經驗ガ理論ニ合セザルハ一時的ノ現象デアツテ、長期ニ就テ見レバ、其ハ理論通りニナルト見ル方法モアル。“On the long run”テフ言ガ用ヒラル、ハ其場合デアアル。或ハ息子自身ハ品行方正デ兩親ニ從順ナノデアアルガ、奈何セン、惡友アツテ之ヲ誘惑スルガ故ニ時ニ邪路ニ迷フナリト云フ風ニ、經驗中理論ニ合セザル部分ノミハアル特別ノ原因ニ依テ起サレタルモノト罪ヲ他ニ轉嫁スル方法モアル。“Other influences being equal”ナル句ガ此場合ニ役ニ立ツ。若シ是等ノ微溫的手段ニシテ功ヲ奏シナイナラバ、最後ニ根本的解決法トシテ此傭兵ヲ首斬ル方法ガアル。而シテ之ニ對スル辭柄ヲ發見スルハ極メテ容易デ、此ノ如キハ例外ナリトモ、重要ナラズトモ、或ハ穩和ニ姑ク論外ニオクトモ申シ得ルシ、更ニ甚シクンバ此ノ如キハ眞ノ經驗ニアラズトモ主張シ得ル。現實世界ガ彼等ノ希望豫想スルガ如ク、進轉セザル爲ニ、此世ハ夢

ノ世デアリ、空ノ世デアル、眞ノ世界ハアル他ノ方面ニ存セテバナラヌ、否確ニ存スルト少ラヌ宗教家ヤ哲學者ヤガ此吾等ニ與ヘラレタル唯一ノ確實ナル世界ヲモ否認シ去ル勇氣ヲ發揮スル裏面ニハ彼等ノ建テタル體系ヲ救ヒ上ゲントスル要求ガ潜ム。哲學上極端ナル懷疑論ガ往々ニシテ宗教上極端ナル正統主義ヲ擁護スル鐵條網トナルハ蓋シ是ガ爲デアル。武士道ヲ主張スル爲ニ人生鴻毛ノ如シト論ズル亦同巧異曲デアル。然リ乍ラ、モシ生其物が既ニ鴻毛ヨリモ輕シトスルナラバ當然ノ論理トシテ生ノ表現ノ一形式ニスギザル武士道ナルモノハ鴻毛ノ一分子ヨリモ更ニ——輕キモノデアルト推論シナケレバナラナイ。

唯夫レ A. Smith 及 Scotland ノ人デアル。彼ハ重農主義者ノ如ク自己ノ便宜ニ反スル現象ヲ無慈悲ニ葬リ終ル慘酷ヲ有シナイ。サリトテ第二ノ解決法ニ訴ヘテ自己ノ先天的命題ヲ拋棄シ、經驗ノミニ賴ル程ノ果斷モ亦之ヲ有シナイ。從テ殘ル處ハ此兩者ノ間ニ立ツテ左顧右眄、甲ヲ排セズ、乙ニ偏セズ、多ク自ラ建設スル處ヲ自ラ破壊スル悲慘ナル運命ニ苦シムニアル。此間ノ消息ヲ最モ遺憾ナク漏ラス實例ハ「自然的ナル」Naturalト申ス文字ガ大體ニ於テ彼ノ先天的思索ト一致スル現象ニ用ヒラル、ニ拘ラズ、時ニハ其先天的前提ヨリ生ジ來ル可キ筈トハ全然正反對ナ

ル事實ニモ冠セラル、事ニアル。恰モ其ニ自然法學派ニ屬スル學者ノ中ニ自然ハ自由ノ人ヲ知ルトナス Rousseau ト自然ハ束縛ノ人ヲ知ルトナス Hobbs トガアル如ク又恰モ後ニ至リテ Marx ガ「現實的」Wirklich ナル文字ヲ在ル現實ト在ル可キ筈ノ現實トニ混ジ用ヒタルガ如クデアル。

是レアルガ故ニ自由競争ニ委ヌレバ經濟組織ハ治セズシテ圓滿ニ發展スルト説ク言下ニ實物貨銀拂ノ國禁ニ贊成シ、一般銀行ノ銀行券自由發行禁止ニモ贊成スルノガ Smith デアル。生産物ノ分配ニハ自然ニ定マル一定ノ高サアリト論ジテ之ヲ基ニ價格論ヲ構成シナガラ、個々ノ分配論ニ於テ「自ラ觀察シ得タル限リニ於テ」"so far as I have been able to observe" ナル句ニ依テ導キ入レタル事實ヲシテ前ニ掲ゲタル根本觀念ヲ破壊セシムルノ餘儀ナキ地位ニ陷ツタルモ Smith デアル。

斯ノ如ク經驗ナルモノニ形而上學的根本信念ノ確實ヲ證明スベキ責任ヲ負ハシメタル結果、先天的信念ニハ絶對的ノ確實性消滅シ、其權威頗ル薄弱ナルモノト化シタ。爲ニ Smith ガ諸種ノ讓歩ヲ敢テシナガラモ、尙自ラ破壊スルヨリハ多クヲ建設シ得タル間ハ比較的ニ無事デアルガ、モシ其後ノ經濟組織ノ變遷ガ益々彼ノ豫期シタルトハ反對ノ方向ニ赴キ、破壊サル、モノ、數、建設サレタルモノ、數ヲ

超ユルニ至ラバ、此經驗ナル傭兵ハ自己ノ勢威ヲ恃ムノ餘リ、最早ヤ思索ノ前ニ頭ヲ垂ル、ヲ肯ンゼザル事トナル。然ルニ爾後ノ形勢ハ自由競争ハ決シテ經濟組織ノ圓滿ナル發達ヲ齎ス所以デナイ事、自然ニ放任スレバ調和ヲ見ルニ先ツテ衝突ヲ生ズル事、乃チ人類社會ヲ支配スルモノハ人類至上ノ幸福ヲ希フ攝理ニアラズシテ、己アルヲ知ツテ他アルヲ慮ラザル盲目的の衝動ナル事ヲ完全ニ展開シタ。而シテコレ實ニ Smith ノ目的論的經濟學ノ基礎崩壞デアル。

Smith ノ後ニ現ハレタル Malthus ハ其前車ノ轉覆ヨリ何物ヲモ學ビ得ザル愚鈍ヲ所有シナカツタ。即チ彼ハ經驗ガ經濟學ヲ作り上グル材料デアル以上、學者ハ最も高イ良心ヲ以テ最モ精確ニ現象ヲ觀察スルヲ必要トスルト悟ツタ。而テモシ論理的ノ統一ヲ急グガ爲ニ記ス可キ筈ノ例外ヲ無視シ設ク可キ筈ノ制限ヲ省略スルガ如キ事ナク、アルガマ、ノ事實ヲアルガマ、ニ “things as they are” ニ叙述スルナラバ如何ニ難治ナル經驗ト雖モ、カクシテ立セラレタル學說ニ反抗スル事ナカル可シト思ツタ。凡ソ如何ナル學說ト雖モ、モシ一般ノ經驗ト一致セザルニ於テハ到底眞ナリト認メラル、ヲ得ナイ、余ガ固ク自說ヲ信ズルハ今日吾人ニ知ラル、各國ノ社會狀態ガ自說ヲ確ムル爲デアルト彼ガ說イタノハ蓋シ此謂デアル。

此簡單ナル引用ニ依テ Smith ト Malthus トノ立場ノ相違ハ一目ニ判然スル。Smith

ニ於テ先天の思索ノ援軍デアツタ經驗ハ Malthus ニ至ツテ自ラ代ツテ主將トナ
リ、先天の思索ハ時ニ之レヲ擁護スル傭兵ニスギナイモノト變ジタ。——少クトモ
Malthus 自ラハカク思惟シタ、嚴格ニ其信念ガ眞ニ適合セルヤハ別箇ノ疑問デ、筆者
ハ此點ニ他日ノ研究問題ヲ留保スル。——

而テ右ノ態度變換ノ具體的產物トシテ、經濟生活ハ自然ニ放任スレバ見エザル
攝理ノ手ニ依テ圓滿ニ進行スルテフ樂天的見解破レテ經濟生活ハ自然ニ放任ス
レバ、人口ト食物トノ不調和ニ因テ救フ可カラザル窮狀ニ沈湍スベシトノ悲觀的
主張ニ到達シタ。固ヨリ茲ニ悲觀論ト呼ブハ絶對的ニ人類ノ永久的窮乏ヲ豫言ス
ル敎理トシテノ意味デハナイ。否、人類ガ彼ノ稱シテ謂フ道德的抑制ヲ行ヒ、依テ以
テ自然ノ生産力ト人間ノ生殖力トヲ調和セシムルナラバ、經濟組織ノ圓滿ナル運
行アル可シト敎ヘタル點ヨリ見レバ、ソハ進歩ノ門ヲ閉シタルモノニアラズシテ
寧ロ眞ニ之ヲ開キタル嚆矢ナリトモ申サレ得ル。ヲモ顧ミズ、筆者ガ殊ニ悲觀論者
トシテノ Malthus ヲ論ズルハ、カクスル事ガ經濟思潮上彼ノ占ムル偶像破壞論者
トシテノ地位ヲ彷彿セシムルニ最モ恰好ナリト信ズルガ爲ニスギナイ所以ハ、カ
ノ Rousseau ガ自然ノ狀態ハ罪ナリ、汚ナキ樂園ナリシニ拘ラズ、人徒ラニ小策ヲ弄
シテ之ヲ惡化セリト敎ヘ、又カノ Malebranche ガ人類貧窮ノ原因ハ一ニ全ク人類ノ

犯ス誤謬ニ發スト論ジタルニ應ジテ、若シ尊キ理性ノ光ニ導カレテ是等ノ小策ヲ捨テ誤謬ヲ訂正シタランニハ、世ヲ舉ゲテ自ラ原始ノ樂園ニ似タル黃金世界ニ復歸スベシト思惟スルガ十八世紀ノ末葉ヨリ十九世紀ノ初頭ニカケテノ歐洲思想家ノ常デアツタ。コレアルガ故ニ英ニ於テ Godwin ハモシ一切ノ人間ヲ勞働セシメ且ツ分配ヲ公平ナラシム可クンバ、人間ハ僅々一日半時間ノ勞働ニ依テ裕カニ生活シ得ベシト夢ミ、佛ニ在テ Condorcet ハ人類ノ進歩ハアラユル點ニ於テ無制限ニ行ハル可ク、醫術ノ發達ハ生命ヲ延長シテ死ヲ原則ヨリモ寧ロ例外タラシムルニ至ル可シトサヘ豫言シ、其反響獨逸ニ傳ルヤ、一八〇〇年 Fichte 亦之ニ和シテ、人類不斷ノ進歩ハ結局現在吾人ノ想像シ得ベカラザル高キ境地ニ迄、人類ヲ完成シ得ベキモノト夢想シタノデアツタ。而テ Malthus ノ父 Daniel Malthus モ亦 Malthus ガ其後敎育サレタル Warrington ノ僧侶モ等シク Rousseau ノ信者デアツタノデ、カク漠然トシテ廣イ天下ノミナラズ、彼自ラノ身邊迄ヲ風靡シ、圍繞シ盡シタル樂天觀ニ對シ、人類窮困ノ眞因ハ僅ニ誤謬ト云フ如キ皮相ノ表面ニ横ハルニアラズ、親ハ子ヲ生ミ、子ハ亦孫ヲ生ム人類無限増殖ノ生理的現象ノ内ニ牢トシテ抜ク可カラザル根蒂ヲ卸セルモノナリトノ一大警鐘ヲ打テ幻影打破ヲ企テタルガ彼レ Thomas Robert Malthus デアツタ。

故ヲ以テ Malthus ノ後ニ現ハレタル Proudhon ハ Malthus ヲ罵ツテ結婚ヲ富裕者ノ特權トナサントスル論者デアルトシ、自己ノ提案ニ依テ勞働ノ狀態ヲ變更シ、勞働者ニ道德的向上、教育及安易ノ訓練ヲ授ク可クンバ、人類ハ他日化シテ天使ノ集合トナリ得ベシト主張セルモノ、其天使ノ集合團體ニ於テハ最早ヤ性慾の結合ハ從屬的、副的地位ニ落ツ可キモノト思惟スル外ハナカツタ。換言セバ空想家 Proudhon ノ如キト雖モ Malthus ノ道德的抑制ノ實行ヲ天使ノ本分ノ一ト認メテ Malthus ノ教理ニ服從スル必要ニ迫ラレタノデアル。

讀ンデ茲ニ至レバ讀者ハ既ニ Smith ノ注意ノ焦點ト Malthus ノ夫レトガ如何ニ相異ルカヲ看破セラレタラウト推察スル。Smith ノ思想ヲ最モ強ク捕ヘタルハ萌エ出デアル資本制生産力ノ進歩デアツタ。其生産力ノ長足ノ進歩ニ驚嘆ノ眼ヲ瞪ツテ滿腔ノ希望ヲ之ニ打懸ケタレバコソ彼ハ其大著ノ劈頭ニ有名ナル留針ノ例ヲ提出シタ。Malthus ニ在テハ即チ然ラズ。彼ハ Smith ノ描キタル偉大ナル生産力ノ發展トテモ、モシ生産物配分ノ法其宜シキヲ得ザランニハ、國民ノ大多數ニ向ツテ何等見ル可キ好影響ヲ及ボサズシテ終ル可キ事ニ早クモ想到シツ、アツタ。簡單ニ云ヘバ前者ハ生産論ニ熱中シタニ反シ、後者ハ分配論ニ没頭シタ。前者ノ經濟學ハ著者自ラノ解題シタルガ如ク、アル國民ノ富ノ本質及原因ノ研究デアツタニ

反シ、後者ノ經濟學ハアル國民ノ貧ノ本質及原因ヲ研究セルモノナリトモ申シ得ル。

斯ク此兩者ハ研究法ニ於テ又結論ニ於テ異ル途ヲ歩ムニ至ツタガ、尙且ツ兩者意見ノ根本ニ於テ相一致スル點アツテ、一ハ力ノ峰ニ立チ、他ハコノ峰ニ立ツト雖モ、畢竟コレ山外ニ立ツニハアラス趣ガナイデモナカッタ。其レハ乃チ經濟學ノ使命ハ個々ノ現象ノ間ニ一貫スル或ル普遍ノ法則ヲ發見スルニアリトスル見解コレデアル。

成程 Malthus ハ學者ハ事實ニ忠實ナラザル可ラズト教ヘハシタ。然シ之ト同時ニ事實ヲ忠實ニ觀察スレバ自ラ其間ヨリ一定ノ法則ヲ發見スルヲ得ベシトモ考ヘタ。否、突キ詰メテ申セバ此法則ヲ發見シ得ンガ、爲ニ事實ニ忠實ナルヲ要スト考ヘタノデアアル。絶對的ニ事實ニ忠實ナレバ到底法則ヲ樹立スルヲ得ザルニ至リハスマイカト云フ如キ危險ハ彼ノカケテモ想ヒ及バザリシ問題デアツタ而テソレハ一七六六年ニ生レテ、一八三四年ニ死ンダ Malthus トシテハ無理ナラヌ信念デアッタ。何トナレバ個性ノ威嚴換言セバ歴史ノ意味トハ彼ノ呼吸シタル思想界ノ空氣ノ中ニハ極メテ稀薄ニシカ存在シナカッタ分子デアアルカラデアル。筆者ハ次ニ若干詳密ナル説明ヲ施ス必要ヲ感ズル。(第一節未完)